

国文学研究資料館報

第46号

平成8年3月

石野政雄氏手扱本について

松野陽一

昨年夏、石野政雄氏の蔵書が当館に寄託された。目下整理中で、移管手続きもほぼ見通しがついた段階であるが、やがて公開、利用可能となるはずなので、かねて多少の縁を持つところから、内容紹介と感想を記しておきたい。

本文庫（と一往呼んでおく）は約二百点程の小文庫で、近世歌書が主体の蔵書構成である。近世歌書といっても、石野氏の関心の中心が、武家の、それも堂上派系の歌門の武家の文事にあつたところから、その系統の本が主流になつていて、伝本の少い作品が大半のこの分野では、なかなか貴重な文庫たり得ているのである。研究のために時間をかけて一点一点吟味しながら購入し、内容を点検して、

先学の意見を徴したものにいたるまで、きちんと清書した書票をかゝりの本に貼付している、正に手扱本の名にあさわしい、研究者にとつては好感のもてる文庫なのである。

ところで、石野政雄氏であるが、研究職にいた方でもなく、専著もなく、僅かに、森銃三氏を中心とした三古会の人々の論集である『近世の学芸』（八木書店 昭51）に、「近世堂上派随想」という文を載せたほか数編の論があるだけの方なので、一般にはほとんど知られていないかと思われる。

同氏の知遇を得たのは、もうかれこれ四半世紀前のことになろうか。仙台に赴任して、東北各地の

次	石野政雄氏手扱本について 松野陽一……………1
	影印叢書『好色一代男』……………2
	シンポジウムコンピュータ国文学……………3
	文庫紹介④……………3
目	新収資料紹介④……………4
	新収和古書抄……………5
目録	……………6
	平成8年度共同研究……………7
	第十九回国際日本文学研究集会……………8
	「七ミナ」原典を読む……………8
	利用者へのお知らせ……………9
	平成8年度春季学会……………10

大名本のなかに正体の判然としない歌書が多量に含まれていて、それが次第に、研究の進んでいない、堂上派系統の武家の歌書であることが判りかけてきたころのことであつた。研究の進展を計るには、論文を書くことも必要だが、資料をなるべく多くの人の眼に触れて貰うことが肝要だという思いから、東都歌壇の資料に限定して作品を選定し、翻刻を進めて行つたのだが、とり分けて急いだのは中期歌壇の基本資料、石野広通撰『霞関集』（再撰本、寛政十一年刊）であつた（古典文庫に入れていた）。この作業の過程で、「広通の子孫の方がいますよ」と森銃三氏に紹介していただいたのが政雄氏だったのである。（広通直系ではないが子孫に当る）。何度かの書簡の往復で、常に具体的な資料提示と共に懇切な示教をして下さつた。例えば、当時、唯一の伝本として確認されながら戦災時の水損で利用できなくなつていた、慶応本の伊藤松軒家集の序を、戦前に臨写しておいたものから転写、今のコピーではなく、筆写して提供して下さつた。三本の伝本が見された現在では無用になつてしまつたが、ほんの少しの手がかりでもほしいその時の段階では、慶応本閲覧不能の落胆の後だつただけに、まことに有難かつたという記憶がある。ところが、直接お話をうかがいたいと希望したところ、老齢と病身を理由に面晤の機会は与えていただけなかつた。その後も、知るところを示すに惜しむところの毫も無かつた方だけに、その凛とした姿勢は、商家育ちで、むしろ無理にも人に接することを美德としてきた身には背筋を正される思いがしたものであつた。直接記されたことはなかつたが、文面の端々や、今回の蔵書の収集傾向や複写資料などから推察すると、氏は広通の全集の作成、全著作解

題を含む広通の文事の総合的な研究を目指されていたのではないかとと思われる。有能な中堅幕臣であった広通が歴任したポスト毎に整理した行政資料、『佐渡事略』『上水記』『憲法部類』などは解題を付すだけでも大変だし、『蹄溪隨筆』『大沢文稿』『霞関集』などの文事の著作も一つだけでも容易なことではない。孤独で困難な仕事を進めていたものと思われる。そこへはるか後進の闖入者があったわけであるから、一方で解明が進むことに喜びを感じられていたと思われる——東北大学図書館狩野文庫に広通の孫の広礼の『閑齋隨筆』があり、それに広通の全著作目録が載っている。極めて精度の高い一級資料である。これを報せた時の喜びは一通りではなかった

——ものの、御自身で調査を充分に進められぬ老いの身のもどかしさを強く意識されていたのではなかろうか。

昨秋、文献資料部の海外調査の途次、ミュンヘンでエヴァ・クラフト女史に逢う機会があった。引退して、もうめったには人に逢わないとされていた方だが、二年にわたって滞在中で同行の小高道子

氏への親愛感と予め送っておいた我々の調査計画への期待感から、用意した夕食の席まで来られ、翌朝は我々が仕事をしている州立図書館まで、杖を引ながら資料を届けて下さった。クラフト女史は旧西ドイツ国内の全ての和本の解題目録の完成を目ざして、五冊を刊行してほぼその目的を達せられた方である。一点一点に記された書誌解説は簡潔にして要を得たもので、昨年、かなりの数の書目を参照の結果、極めて精度の高い解題であることを確認、敬服した次第であった。なお、若干の調査洩れの文庫や、新出本の残ることを知り、当館で調査の上、解題を作成してクラフト目録の補遺としたい旨を伝え、快諾されたのであった。クラフト氏の日本語は見事に歯切れのいい、東京下町のシャッキリした口調である。神田育ちの私には久しぶりになつかしい響を耳にした思いであった。無論、感銘を受けたのは仕事の完成に向けた強い思いによってである。時期が重なったこともあって、この印象が一層、石野氏の果せなかつた思いを推察させることになったのである。不思議なことに、本稿執筆中

に広通の基本資料が二点、別のところから架蔵に入った。自筆の家集(連歌集)と初撰本霞関集(元本)とである。前者は全くの新出の孤本。後者は従来、孤本のために欠脱や錯簡による本文の混乱に手をつけかねていた慶応本を補訂できる善写本である。石野氏の思いがもたらしてくれたのであろうか。

蔵書中の注目すべき書目二、三について触れておく。石野広通が師冷泉為村の詠作を整理編纂し、序を附した『冷泉為村御詠作類聚』は国書絵目録には書名を掲げるのみだが、これは広通筆本である。ただし、四冊を欠き一七冊現存。

『享斎和歌集』は習古庵亨弁の家集。八戸南部家本しか伝本のなかつたもので成立期に近い精写本。

長谷川安卿の歌文集『夏野の草』、江戸冷泉門の詠草『御褒詞和歌』、『安永三年慈鎮五百五十回忌追福百首』、『詠源氏物語』なども伝本の少い堂上派武家の歌書。『芝君和歌集』(芝山持豊)も珍しい。

撰集の『まささのかつら』、『和歌渚の松』、伝本が少いわけではないが『三条実澄御和歌聞書』(中院)、『通茂公口伝幸隆聞書』、『義正

聞書(冷泉)宗匠家教諭』、『烏丸口伝』、『野江問答(六百番歌合判詞)』等の公家口伝聞書類がまともに在り、『詠歌大概講義』、『詠歌大概後水尾院勅講抄』、一般的なものでは『堀川百首』の写本、石野広通の識語・書入の入った『作者部類』写三冊などが眼についた。精査しないと正体が判明しない書目もあり、今後に期待するものが大きい。

今回の寄贈は政雄氏の御遺族広樹氏の御好意によるものである。父の遺志を生かしたいという以外に余言のない簡潔なお話には幕臣の清廉な家風の遺響を聞きとって感じ入った次第であった。

(企画調整官)

影印叢書『好色一代男』

当館所蔵の貴重書より井原西鶴『好色一代男』を、影印で刊行しています。内容は「刊行にあたって」佐竹昭廣、カラー二葉口絵、本文影印、解題(松田修)。

定価六、五〇〇円。汲古書院刊。購入をご希望の方は汲古書院(〇三―三二六五―九七六四)まで。

第1回

シンポジウム コンピュータ国文学

データベース室長 中村 康 夫

平成7年10月6日、午前と午後

を通して第1回「シンポジウム

コンピュータ国文学」を開催した。

出席者は約一〇〇名となった。

本シンポジウムは、昨年度には

「第6回国文学とコンピュータシン

ポジウム」「第4回国文学デー

タベース研究会」に分かれて行

われていたものを、発展的に統合

し、より総合的な取り組みを目指

したものである。

プログラムは講演六題とシンポ

ジウムで、以下の通り。

【講演】

1. 万葉集データベースについて

徳島大学 中川博夫

2. 国文学共同研究とデータベ

ースー「真報記」の場合ー

データベース室 相田 満

3. 和歌研究とコンピュータ好

忠集をめぐってー

OXFORD UNIVERSITY

PHILIP HARRIES

4. 歴博LANとインターネット

の現状

国立歴史民俗博物館

鈴木卓治

5. 日本史料データベースの構

築

日本女子大学 永村 眞

6. 記録類全文データベ

ースー

国立歴史民俗博物館

照井武彦

【シンポジウム】

国文学研究とインターネット

大阪明浄女子短期大学

伊藤鉄也

情報処理室 原正一郎

今後の課題としては、多様なテ

ーマをいかにリアルタイムに取り

上げていくかということがある。

また、データベースが相変わらず

研究者一般のものになっていない

という現状もある。その多様性を、

日程・場所・設備等、物理的な条

件をクリアしながら受け止めてい

くことが求められる。

何かにつけ、ご助言を賜れば幸

いである。

文庫紹介 ⑳

長野県短期大学付属図書館

長野県は古くから教育県として

全国にその名を轟かせているが、

その名に違わず、この県立の小さ

な短期大学の図書館にも相当数の

和書が所蔵されていることに驚き

を禁じえない。従来、研究者の間

ではあまり名の知れない存在で

あったようで、例えば同館所蔵の

背表紙本『源氏物語』(寛文ころ写)

なども、まだ一度も研究者が見に

訪れたことはないと言われている。

同館の蔵書は漢籍を省くと、和

書が約三〇〇点。それらの内容は、

前身の長野県女子専門学校時代に

国文科があったために、多岐にわ

たる国語国文学関係書が集められ

ており、特に女子教育関係書につ

いては、女専時代に教鞭をとられ

た故布村安弘教授が昭和十年五月

に寄贈されたものがその根幹をな

している。

二、三書目をあげると、『源氏

物語』(寛文ころ写) 五十四帖、

『修業田舎源氏』三十八編十三冊、

『里見八犬伝』百六冊、『新華摘』

一卷一冊、『おらが春』一卷一冊、

『女訓抄』(寛永十九年刊) 三巻
三冊、『女鏡秘伝書』三巻三冊など、
名の通った代表的作品を多く集め
ている。

国文学研究資料館では、同短期
大学太刀川清教授の御協力を得て、
平成五年度より調査を進め、既に
二五〇点の調査カードと二四〇点
のフィルム収集を行い、なお継続
中である。

同蔵書に関わる参考文献として
は「長野県短期大学紀要」第48号
と49号に、太刀川清氏編の「長野
県短期大学付属図書館蔵和書解
題」(一)女子教育書の部、(二)国文学
関係書の部が掲載されているので、
参考にされたい。

なお問合せは、〒380長野市三輪
八一四九一七、長野県短期大学付
属図書館
電話 〇二六一一三四一―二二二
(文献資料部 岡 雅彦)



新収資料紹介 ④1

白杵藩吉田家歴代詩文 江戸期写三十一卷

豊後国東部にあった白杵藩（表高五万六千五百石、現在大分県白杵市）の藩主稲葉侯に代々仕えた儒者・吉田家の詩文と役務記録。吉田家の五代にわたる資料で、その大半は、一家の学問の礎を築いた正致（号臥龍軒、享保十年（一七二五）没、七十七歳）の文芸にかかわるものである。臥龍軒は、貞享年間（一七二四）の終わりから留守居役を命ぜられ、洛南にあったが、在任中に福建の人、日本の黄檗山第五代にあたる高泉性激に参禅し、詩文の指導を受けた。また伏見から京都に入り、伊藤仁斎の門を叩き、古義堂の人々とも深く交流した。臥龍軒の息子は正賢（明和七（一七七〇）没、七十四歳）といい、父の学芸を受け継ぐかたわら、徂徠派の経学をも修め、藩儒莊田子謙とともに徂徠学を豊後にもたらした一人として知られる。以来、幕末の正由の代に至るまでの、吉田家とそのゆかりの深い儒家積門たちによる詩文应酬や、吉田家由来の書、幕末期の藩主親通公（在任弘化元年（一八四四））文久二年（一八六二）をめぐる書状等を所収する。とくに興味深いのは、高泉など、明末清初の生き証人だった僧侶たちが添削の筆を揮

- 1 前半十巻の詠草であろう。彼らとの問答の中に、近世初期に漢詩文がいかに学習され、そして立志の文芸としてどう形成されていったかも瞥見されよう。三十一巻現存（四巻欠か）、各代それぞれの自筆から成り、しかし卷子に纏められたのは近代期に入ってからのものである。その内の、文芸にかかわる十八巻の外題と内容を簡略に紹介すると次の通である。（漢数字は題簽巻数による）
- 1 歴代詩文 一 外題註（以下「註」）
「高泉批点 臥龍軒」。吉田臥龍軒撰「法要問答」。黄檗高泉性激批の臥龍軒詩文及び宝永・正徳・享保間の詩文歌稿。
- 2 歴代詩文 二 註「追悼詩 臥龍軒」。息正賢らによって綴られた臥龍軒の追悼詩文と、元禄四年高泉批等の臥龍軒文稿。
- 3 歴代詩文 三 註「六将画」
「臥龍軒」。貞享五年高泉批点「六将画賛並序」。
- 4 歴代詩文 四 註「高泉批点 臥龍軒」。元禄二年上方在任中の詩稿に高泉批点。
- 5 歴代詩文 五 註「臥龍軒絶筆有

- 之」。上方旅中吟、元禄四年・享保中の詩稿。
- 6 歴代詩文 六 註「南源批点 臥龍軒」。詩稿に黄檗南源性派批点。
- 7 歴代詩文 七 註「独吼批点 臥龍軒」。上方旅中吟に黄檗独吼性獅批点。
- 8 歴代詩文 八 註「高泉与独湛消息 臥龍軒写」。黄檗独湛性登宛高泉尺牘一通を臥龍軒が筆写。
- 9 歴代詩文 九 註「生死問答 臥龍軒」。貞享・元禄期間の詩文稿に高泉批点。
- 10 歴代詩文 十 註「古詩蘇黄問答 臥龍軒」。臥龍軒と高泉の詩話問答。
- 11 歴代詩文 十四 註「采賢」。吉田新蔵（号正賢）の尺牘草稿・詩稿。
- 12 歴代詩文 十五 註「玉井重悠」。玉井重悠の詩文稿と書簡。
- 13 歴代詩文 十六 註「正村日記上使一件」。正賢の息吉田三郎兵衛正村筆日記・口達書・触書控。
- 14 歴代詩文 十七 註「正村勤任録手控」。郡奉行時代の役務に関する書留。

- 15 歴代詩文 十八 註「正喜」。寛政期を含める吉田正喜の詩・歌稿。
 - 16 歴代詩文 二十 註「正由」。吉田正由（号東州）が在府中の詩稿に、武藤虎峰など幕末の白杵藩儒らの来簡・留別詩等。
 - 17 歴代詩文 二十一（割註なし）。正由往復書簡。
 - 18 書簡 註「歴代詩文二十一附属」。田原長太夫・白石照山等白杵藩士からの来簡。
- （整理閲覽部 ロバート キャンベル）
- 註開法事代
其一
元采無節節何以尋定 親和与有舟
其二
既既見性見者是誰性是何物見性不見性身是見與性又有二也否
其三
心若加伴愛起滅不得苦樂亦常又空無欲能不拘；何以論佛佛無空觀空用 其四
佛國須無苦樂生時也何鳥用

新収和古書抄 — 平成七年 —

長秋詠藻 写本袋綴一冊

藤原俊成の家集の一つ。右大臣家百首や長歌を載せるので、四類に分けられるうちの三類本の本文と分かる。嘉吉三年の柿木庸材(兼良)の本奥書の外に、康正元年の転写奥書をも有し、書承の経路を窺わせる。扉に「松田蔵」の蔵書印を押す。斐楮交漉料紙。

元亨釈書 版 三十卷十五冊

丹表紙。寸法、二九・〇×二〇・六種。寛永元年、洛下小嶋家富跋。題簽すべて存。美本なり。

景德伝燈録 版 三十卷二一冊

香色表紙。寸法、二七・六×二〇・三種。寛永十七年、二条通鶴屋町、田原仁左衛門刊。美本なり。

顯註密勅 刊本八冊

顯昭の古今秘注抄に定家が説を付加した古今和歌集の注釈書。明暦三年刊。版元は洛陽今出川和泉掾林時元。本文は、所謂、慶融筆写本系統本に分類される。版本は元禄十五年版本も知られるが、本

文は同系統とされる。

近代百ものがたり 版本五冊

仮名草子。怪異譚六八話を収める。延宝五年西村九郎右衛門刊「御伽物語」の再版で、元禄十三年平野屋吉兵衛版。内題・柱は「宿直草」で「御伽物語」と同じ。初版の外題が「宿直草」であったかは、問題を残す。本書は卷三に12丁半の落丁がある。「福田文庫」の蔵書印あり。

飛鳥山十二景和歌 刊一冊

元文六年二月、江戸大和屋孫兵衛、花房屋平三郎による初刊本。伊達家旧蔵(「伊達伯観瀾閣圖書印」、版面精良の美本であるが、題簽を欠く。芥川寸草の発企により、成島信遍をはじめ徳川吉宗側近の歌人の詠と狩野良信の画を収める。初刊本は伝来稀れ。

香川黄中書状 写一卷

掲出書は、香川黄中の書簡二十通ほか詠草若干を卷子に仕立てたもの。宛先には「未意」「正俊」

「松下」などとあり、署名は「梅月」「黄中」「残水」など。内容は詠歌を中心とする雅事。巻首に、明治三十五年の「ふじのやあるじ」の識語。香川景樹の養父黄中の伝記資料として貴重である。

江戸三十六城門画帖 横大本一冊

角書「徳川覇府」。明治二十九年十一月刊。清水三次郎による江戸城城門の絵を石版多色刷にしたもの。簡単な解説を活字印刷で付す。版元は東京の森山章助(同文館)だが、刊記には「関西売捌所吉岡書店」とあり、大阪でも売られていたことがわかる。

ちりめん本十一種

縮緬のように紙の表面に皺をつけて、活字と整版で本文と挿絵を刷り上げた明治期輸出用の翻訳子供絵本である。独語では「孝女白菊」、「寺子屋・朝顔」、英語では「桃太郎」など「日本昔噺」シリーズから。東京弘文社・長谷川武次郎版。



国文学研究資料館冬景色

彙報

委員会日誌

平成7年

11月2日 国文学文献資料調査

員九州地区会議

11月9日 国際日本文学研究集

会委員会(第二回)

11月17日 国文学文献資料調査

員近畿地区会議

12月15日 共同研究委員会(第

二回)

12月20日 外部評価委員会

12月26日 国際日本文学研究集

会委員会(第三回)

平成8年

1月30日 共同研究委員会(第

三回)

2月14日 国文学文献資料収集

計画委員会(第二回)

2月22日 古典籍総合目録委員

会

2月27日 情報システム委員会

運営協議委員会の開催について

本年度第二回運営協議委員会が平

成七年十二月十三日(水)に開催

され、議事は、教官人事、管理運

営の概況について協議が行われた。

本年度第三回運営協議委員会が平

成八年二月十九日(月)に開催さ
れ、議事は、教官人事、管理運営
の概況、平成8年度予算内示及び
平成8年度事業計画について協議
が行われた。

評議員会の開催について

本年度第二回評議員会が平成八
年三月五日(火)に開催され、議
事は、管理運営の概況、平成8年
度予算内示及び平成8年度事業計
画について評議が行われた。

外国出張

松野 陽一

新藤 協三

山崎 誠

鈴木 淳

渡航先 ドイツ連邦共和国

目的 ドイツ連邦共和国に

流出した日本文学資

料の調査研究

期間 平成7年9月20日~

平成7年10月6日

青木 睦

渡航先 連合王国

目的 イギリスにおける歴

史的史料の紙質研究

及び保存・修復の現

状に関する調査研究

期間 平成7年9月23日~

平成7年10月8日

松村 雄二

中村 康夫

原 正一郎

渡航先 ドイツ連邦共和国、

連合王国

目的 国文学データベース

の学術情報網による

国際共同利用に関する

研究

期間 平成7年10月23日~

平成7年11月5日

中村 康夫

渡航先 オーストラリア

目的 国文学データベース

の学術情報網による

国際共同利用に関する

研究他

期間 平成7年11月20日~

平成7年11月27日

安藤 正人

渡航先 連合王国

目的 在英日本史料の所在

と現状に関する調査

期間 平成7年11月26日~

平成7年12月10日

森 安彦

渡航先 連合王国

目的 在英日本史料の所在

期間 平成7年12月2日~

平成7年12月16日

佐竹 昭廣

松野 陽一

森澤 良水

渡航先 フランス

目的 コレージュ・ド・フ

ランス日本学高等研

究所との学術交流に

関する覚書の締結他

期間 平成8年2月3日~

平成8年2月12日

高木 俊輔

丑木 幸男

山田 哲好

安藤 正人

渡航先 連合王国

目的 在英日本史料の所在

と現状に関する調査

期間 平成8年2月4日~

平成8年2月18日

松村 雄二

武井 協三

原 正一郎

佐々木孝浩

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学データベース

の学術情報網による

国際共同利用に関する

第19回国際日本文学研究集会報告 情報資料室

第十九回の国際日本文学研究集会は平成七年十一月九日、十日に開催された。参加者は一六六人、その内、外国からの参加者と国内に在住の外国人の参加者は計三九人であった。

第一日目(11月9日)

【研究発表】

- ①安居院流唱導における国文学と美術史の連絡—普賢菩薩・十羅刹女像を中心として— ミカエル・ジャメンツ(ハーバード大学大学院)
- ②「今昔物語集」構想に対する一試論—三国構想における三韓關係話の捉え方を中心に— 李瑛雅(神戸大学大学院)
- ③文学と演劇の「引用」の差異について—本歌取り・本説・素材をめぐる一考察— ボナヴェントゥーラ・ルベルティ(ヴェネツィア大学研究員)
- ④新ロマン主義の再検討—明治二八年—大正五年を中心として— 米山楨一(台湾大学副教授)
- ⑤福永武彦「秋の嘆き」論 王成(立教大学大学院)
- ⑥阿部公房の小説における(変身)のモチーフをめぐる一初期作品を中心として— 李貞熙(筑波大学大学院)

第二日目(11月10日)

【研究発表】

- ⑦「浄瑠璃」と「パンソリ」作品の感情を模写した擬音語・擬態語—人物の泣くさまを中心に— 齋三善(実践女子大学大学院)
- ⑧古浄瑠璃「しのだづま」の新趣向 加賀佳子(早稲田大学大学院研修生)
- ⑨地方諸藩に見る能役者の活動—萩藩・岩国藩の江戸初期演能記録を中心に— 樹下文隆(国文学研究資料館助教授)

【口演】

- 「替女唄」葛の葉子別れ—竹下玲子【講演】
- ①上方役者絵の特色—ひいきとのかかわり— 松平進(甲南女子大学教授)
- ②享保期の近松時代物 アンドロユー・ガーストル(ロンドン大学教授・国文学研究資料館客員教授)

なお、今年の国際日本文学研究集会は、十一月七日、八日に開催の予定である。発表希望やお問い合わせは、当館情報資料室まで。

「セミナー原典を読む」

当館では、平成五年夏より「原典講読セミナー」を開催している。セミナーの講義については、平凡社から「セミナー原典を読む」が、刊行されている。既刊分は次のとおり。

- 「浮世風呂・浮世床—世間話の文学—」 本田康雄著
 - 「書秘伝—入木道の古典を読む—」 新井榮蔵著
 - 「千載集—勅撰和歌集はどう編まれたか—」 松野陽一著
 - 「古文書が語る近世村人の一生」 森安彦著
 - 「百人一首—定家とカルタの文学史—」 松村雄二著
 - 「蚕の村の洋行日記—上州蚕種業者・明治初年の欧羅巴体験—」 丑木幸男著
 - 「一休ばなし—とんち小僧の来歴—」 岡雅彦著
- 定価は各二千円で、市販されている。



利用者へのお知らせ

◆所蔵目録刊行のご案内

「マイクロ資料目録」、「和古書目録」、「逐次刊行物目録」の最新版をご紹介します。

(一)「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九五年」(第19冊)

収集したマイクロ資料のうち、この一年間に整理が終了した二八所蔵者(文庫)分、五、二二二点をとりまとめ冊子体にしたものです。収録所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。今回新たに収録された八所蔵者には*印を付けました。

- 文庫No. 所蔵者
- 11 京都大学文学部(頼原文庫)
 - 26 酒田市立光丘文庫
 - 48 名古屋市蓬左文庫
 - 50 高岡市立中央図書館
 - 55 陽明文庫
 - 88 東京芸術大学附属図書館
 - 92 上田市立図書館(花月文庫)
 - 93 上田市立図書館(花春文庫)
 - 99 高知県立図書館(山内文庫)
 - 244 大阪女子大学附属図書館
 - 255 新城ふるさと情報館(牧野文庫)

260 東京都立中央図書館(東京誌料)

276 加賀市立図書館(聖藩文庫)

296 尊経閣文庫

308 柿衛文庫

312 正教蔵文庫

319 白鹿記念酒造博物館(西宮市笹部桜コレクション)

320 *東京芸術大学附属図書館(脇本文庫)

321 *鎌田共済会図書館

324 *新潟大学附属図書館(佐野文庫)

325 *石川県立図書館(李花亭文庫)

328 *川崎市市民ミュージアム

330 *長野県短期大学付属図書館

16 *石井庄司

18 温泉寺

14 *廣瀬捨三

マ4 香川某家

ヤ8 矢口米三(矢口丹波記念文庫)

(二)「国文学研究資料館蔵和古書目録増加6(一九九五)」

この目録には、前回の「和古書目録増加5(一九九二)」刊行後、

受入整理した和古書八四七点を収

録しています。

「国文学研究資料館蔵和古書目録一九七二—一九八六」、「同増加4(一九八七)」、「同増加5(一九九二)」と併せてご利用ください。

(三)「国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録一九九六年」

既刊の一九九四年版(第16版)に続いて、一九九五年一二月までに受入整理した雑誌紀要類の累積目録で、収録誌数は三、八二四誌です。

◆「マイクロ資料目録縮刷版」の市販について

「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録」は、発行部数に限りがあり、一部の機関にしか配布できないのが現状です。そこで、縮刷版を別途刊行し市販しています。

第一八冊目の一九九四年版が、二月に発行されました。(笠間書院刊、定価六、〇〇〇円)

◆利用案内

学校の教員及び調査研究機関の研究員、大学及び大学院の学生、

その他館長が適当と認める者

閲覧時間

九時—十七時

資料請求受付時間

九時半—十二時、十三時—十六時半

文献複写受付時間

九時半—十五時半

休室日

日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日(日、土の場合は直前の金曜日)、四月末—五月上旬五日間、十二月二十七日—一月五日(ただし、平成八年度は一月六日まで)、三月二十五日—三月三十一日、その他

来館できない場合の利用方法
大学図書館等を通じて申し込めば文献複写及び貸出(資料は限定されます)ができます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることができます。

詳細は情報サービス係にお問い合わせください。

45号12頁2段2行目に「金春禅竹自筆伝世」三種の紹介記事が「館報44号」にあるとしましたが「43号」の誤植です。おわびして訂正いたします。

平成8年度 春季学会

- ①事務局 ②学会開催日 ③会場
- 解釈学会** ①〒170豊島区北大塚3-29-2 教育出版センター内03-5394-1203 ②8月22・23日(予定) ③宮城学院女子大学
- 歌舞伎学会** ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②6月15日 ③江戸東京博物館
- 訓点語学会** ①〒155世田谷区代沢1-20-10 ②5月17日 ③青山学院大学
- 芸能史研究会** ①〒606京都市左京区浄土寺真如町77 紫雲荘6号075-761-8718 ②6月2日 ③京大会館
- 国語学会** ①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 事務取扱 ①〒101千代田区神田錦町3-11武蔵野書院03-3291-4859 ②5月18・19日 ③青山学院大学
- 古事記学会** ①〒150渋谷区東4-10-28 國學院大学文学部日本文学第二研究室内03-5466-0215 ②6月15～17日 ③皇学館大学
- 上代文学会** ①〒214川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学6号館A48橋本研究室内044-911-1080 ②5月18～20日 ③宮崎国際大学
- 昭和文学会** ①〒101千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内03-3295-1331 ②6月8日 ③國學

- 院大学
- 説話・伝承学会** ①〒603京都市北区等持院北町56-1 立命館大学文学部福田晃研究室075-465-1111 ②4月28・29日 ③花園大学
- 説話文学会** ①〒970いわき市中央台飯野5-5-1 いわき明星大学人文学部田嶋一夫研究室内0246-29-7197(ダイヤルイン)、0246-29-5111(代) ②6月29・30日 ③國學院短期大学
- 全国大学国語教育学会** ①〒305つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室内0298-53-6732・6733 ②7月31日、8月1日 ③茗溪会館
- 全国大学国語国文学会** ①〒101千代田区猿楽町2-2-6畑山第1ビル(株)おうふう気付03-3294-0857 ②6月8・9日 ③明星大学青梅キャンパス
- 中古文学会** ①〒112文京区白山5-28-20 東洋大学文学部国文学研究室03-3945-7367 ②5月11・12日 ③立正大学
- 中世文学会** ①〒175板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学科関口研究室03-3935-1113内3127 ②5月18～20日 ③大東文化大学
- 日本演劇学会** ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②5月25・26日 ③明治大学
- 日本歌謡学会** ①〒630奈良市高畑町奈良教育大学真鍋研究室内0742-27-9153 ②5月11・12日 ③明治大学
- 日本近世文学会** ①〒162新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部谷脇理史研究室内03-3203-4141 ②6月8・9日 ③東京都立大学
- 日本近代文学会** ①〒171豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部第2日本文学研究室内03-3985-2504 事務取扱 ①〒113文京区本駒込5-16-9学会センターC21日本学会事務センター内03-5814-5810 ②5月25・26日 ③立教大学
- 日本口承文芸学会** ①〒150渋谷

- 区東4-10-28 國學院大學文学部伝承文学研究室(野村教授)内03-5466-0224 ②6月1・2日 ③國學院大學たまプラーザキャンパス
- 日本国語教育学会** ①〒112文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内03-3941-3420 ②8月2・3日 ③国立教育会館・虎ノ門ホール
- 社団法人 日本語教育学会** ①〒107港区赤坂1-8-10 第9興和ビル内03-3584-4872～3 ②5月25・26日 ③筑波大学
- 日本社会文学会** ①〒603京都市北区小山上総町22 大谷大学文学部片岡研究室075-432-3131 ②6月8・9日 ③明治大学
- 日本比較文学会** ①〒411三島市文教町2 日本大学国際関係学部秋山正幸研究室内0559-86-5500 ②6月15・16日 ③青山学院大学
- 日本文学風土学会** ①〒359所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文科研究室0429-25-1111 ②6月15・16日 ③専修大学
- 日本文芸研究会** ①〒980仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内022-217-5957 ②6月8・9日 ③東北大学
- 日本文体論学会** ①〒110台東区下谷1-5-34 三修社内03-3842-1711 ②6月21・22日 ③二松学舎大学
- 日本方言研究会** ①〒192-03八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事0426-77-2135 ①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-3900-3111 ②5月17日 ③東京都立大学
- 表現学会** ①〒168杉並区永福1-9-1 明治大学和泉校舎佐藤(嗣)研究室内03-5300-1121内1311 ②6月1・2日 ③明治大学
- 仏教文学会** ①〒654神戸市須磨区東須磨青山2-1 神戸女子大学石原研究室内078-731-4416 ②6月1～3日 ③立正大学

国文学研究資料館報 第四十六号
平成八年三月発行
編集・発行者
国文学研究資料館
東京都品川区豊町一―一六―一〇
郵便番号一四二
電話(三七八五) 七二三
FAX(三七八五) 七〇五一
印刷所 有限会社 スミタ

る研究

期 間 平成8年3月2日～平成8年3月17日

海外研修旅行

丸山 勝巳

渡航先 アメリカ合衆国
目的 情報科学国際会議で論文発表のため

期 間 平成7年9月27日～平成7年10月3日

安藤 正人

渡航先 アメリカ合衆国
目的 第7回記録史料保存教育研修に関する国際シンポジウム出席

期 間 平成7年10月24日～平成7年10月30日

文部省永年勤続者表彰

文部省永年勤続者表彰規程に基づき、次の方に表彰状を伝達し、記念品として銀杯を贈呈した。

○平成7年11月23日付

山口 博基(管理部庶務課長)

人事異動(平成7年9月～平成8年2月)

○平成7年10月1日付

(併任)

金 文京(文献資料部助教)
(京都大学人文科学研究所助教から)

(平成7年10月1日～平成8年3月31日)

○平成7年10月16日付

(転入)

大河 史彦(会計課管財係)
(東京大学理学部・理学系研究科施設係から)

○平成8年2月1日付

(転出)

楠原 良成(庶務課庶務係)
(鹿児島大学医学部総務課人事情係へ)

訂正

45号の記事に誤りがありましたので、おわびして訂正させて頂きます。

17頁13段氏名

ロバート・キャンベル

平成8年度共同研究

稲荷大社蔵「諸社効能」の注釈的研究

吉原浩人(早稲田大学助教)

阿部泰郎(名古屋大学助教)

小峯和明(立教大学教授)

山崎 誠(国文学研究資料館助教)

歌舞伎番付の研究

赤間 亮(立命館大学助教)

土田 衛

池山 晃(大東文化大学助教)

水田かや乃(園田学園女子大学助教)

神楽岡幼子(早稲田大学演劇博物館助手)

武井協三(国文学研究資料館助教)

近世後期西国藩儒の学問と生涯

―「牧園茅山日記」の研究―

井上敏幸(福岡女子大学教授)

高橋昌彦(純真女子短期大学助教)

安永美恵(筑紫女学院短期大学助教)

白石良夫(文部省教科書調査官)

宮崎修多(成城大学助教)

入口敦志(国文学研究資料館助手)

ロバート・キャンベル(国文学研究資料館助教)

正教蔵文庫の調査研究

廣田哲道(大阪女子大学教授)

阿部泰郎(名古屋大学助教)

黒田 彰(愛知県立大学助教)

小林健二(大谷女子大学助教)

田中貴子(梅花女子大学助教)

樹下文隆(国文学研究資料館助教)

中野真麻理(国文学研究資料館助手)

〔源氏大鏡〕

―一類本文の比較と研究―

倉田 実(大妻女子大学短期大学部助教)

渡辺久寿(山梨英和短期大学助教)

田坂慈二(福岡女子大学教授)

安達敬子(京都府立大学女子短期大学部講師)

辻本裕成(国文学研究資料館助手)

土田節子(国文学研究資料館助手)

